

ひなぎくの森

第 10 話
文 * sawori

椿のバンド、トルーマンのライブが始まった。

SEはThe BeatlesのTomorrow Never Knowsで、それは一気にライブハウスの雰囲気を変えた。トルーマンは、全員が同じ某国立大学の生徒からなる4人のバンド。入学後初めての授業で、椿愛用のMacに貼ってあるステッカー「Tomorrow Never Knows」を見て、

「それって、ビートルズ？ミスチル？」と聞いてきたのが現ギターの哲多くんだった。

「え？ミステルって？ビートルズ以外にこのタイトルの曲あんの？」ぶっきらぼうな椿の言い草に、哲多くんはプツと吹き出し、「だよな～～」ということで己人は友達になった。

二人は同じ文学部で英文学を専攻しており、ある日の課題で短編小説を書いた。お互い読み合ってみると、哲多くんは椿の才能に驚き「椿は日本のカポータイヤな」と称賛。「椿のカポータイヤ的な詩とビートルズっぽいロックでなんかバンドとかやりたない？」おお！という目をして、次の日椿は恐ろしい枚数のレポート用紙を持参した。「これ歌詞候補のストックな。曲も考えてみるわ。」そう言うと1週間学校を休んだ。真面目に出席していた哲多くんはその間に配られた『クラスの自己紹介』のプリントの『好きな音楽』の項目をチェック。ストロークス好きの荻須森生（のちにギズモの愛称で親しまれるフワフワヘアで愛くるしいルックスのドラム）、UK ロック全般と書いた大澤創（のちに曹操の愛称で親しまれる黒ぶちメガネで首席のベース）に声をかけ、かくかくしかじかのバンドをやらうと誘ったのだった。そんなこんなで椿が初めての曲「ミリアム」を持ってきた。単純なコードではあったが、歌詞の秀逸さで哲多くんはすぐに気に入り、他のメンバーと練習に練習を重ねて今この姿。

「ツバキ…イケメンすぎます。ルックスも才能も。」フランソワが敗北感を感じている横で、「この曲 MV 映えしそうだよな～、誰かに頼んでみるか～、で・・・」とブツブツ言っている松山店長の横で、「歌詞がほんとに最高ね～」と目がキラキラしている小桃さんの横で、（なんだかんだで毎年クリスマスは仕事だから店長と過ごせる。今もなんかブツブツ言ってメモして加瀬くんのバンドのマネジメント考えてるっぽい。優しい。カッコよすぎる・・・てんちょう・・・）と全く演奏が頭に入らないひなぎく。

ひなさん、全く聞いてねー（泣）演奏後ふてくされた椿は、世の友となったフランソワと「とりあえず眼中に入ろう会」を結成するのであった。 つづく

* ひなぎくの森のカルチャーその10
 椿のバンド、トルーマンのあれこれ

最初はバンド名だけ考えていたトルーマンですが、書いているうちにどんどん妄想が膨らみ、なぜかバンドメンバーまで考えてしまいました。笑　　ということで、バンド紹介。。

加瀬 椿（カセ ツバキ）

エバグリのバイトでトルーマンのボーカル・ギター・作詞作曲担当。トルーマン・カポーティ好きの大学2年生。神尾楓樹似の超イケメンだが本人はルックスにコンプレックスがある。



イメージ画像
です（笑）

truman

荻須 森生（オギス モリオ）

名前とフワフワヘアの愛くるしい見た目から
ギズモの愛称で親しまれるトルーマンのドラ
ム。ストロークスのドラムのファンで、服や
髪型も真似している。流行なんて関係ない、
永遠のファッションアイコンはストロークス
との信念には揺るぎがない。



左から2番目がスト
ロークスのドラム。



佐久間 哲多（サクマ テッタ）

トルーマンのギター。ビートルズ好きの父の影響でギターを弾き始める。明るく人気者で生徒会長の経験もあり。椿の才能にいち早く気づいたトルーマンのリーダー的存在。



ポールが好き

大澤 創（オオサワ ソウ）

首席で入学したと噂の黒ぶち眼鏡でいかにも頭の良さそうなルックスからソウソウ（曹操）の愛称で親しまれているトルーマンのベース。見た目とは裏腹に The Who などの UK ロックをこよなく愛するコレクター。引き出しの多さからトルーマンの軍師とも呼ばれている。



曹操と The Who
アンバランスで素
敵

(前回までのあらすじ) フランスからの留学生フランソワとレコード店で働くひなぎくとのカルチャー交流記。共にひなぎくを気に入っているバイト仲間の椿と意気投合したフランソワ。ちょい役のはずの椿がなんだか主要キャストの仲間入りになってきたひなぎくの森です。

* sawori *